女性医師研究者支援事業基金

Support Center for Women Health Care Professionals and Researchers

女性医師研究者支援基金につきまして、多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。これからの社会において多くの女性医療者たちが活躍できるよう、深いご理解とご関心をお寄せくださる皆様から賜りましたご芳志に深謝するとともに重ねて心からお礼申し上げます。

多くの指導的立場となる優れた女性医師・研究者を育成し、価値ある業績を積み重ね、将来の日本の医療に貢献するために役立てて参ります。今後とも何卒ご支援とご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

ご寄付合計金額　51,730,000円　（平成27年3月末現在）

ご芳名一覧（五十音順）　平成26年4月から平成27年3月末まで

- 医療法人 一秀会 様
- 大野 広子 様
- 久保川 登 様
- 鈴木 聡 様
- 寺山 明子 様
- 吉永 花子 様
- 吉原 百合枝 様

匿名６名

募集要項

- 目　的・・・・女性医師研究者支援事業のための経費
- 目標額・・・・3億円
- 対　象・・・・法人：1口の金額を特に定めておりません
  個人：1口2万円（多数のご支援をいただけますと幸いです）

＊申込方法、振込方法、免税措置（企業等法人、個人）など、寄付に関する詳細につきましては、下記までお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

東京女子医科大学　女性医師・研究者支援センター

〒162-8666　東京都新宿区河田町8-1
TEL：03-5269-7319（内線：8382）　FAX：03-3353-6793
E-mail：w-support.bm@twmu.ac.jp　http://www.twmu.ac.jp/w-support/

東京女子医科大学
Tokyo Women's Medical University

女性医師・研究者支援センター

Support Center for Women Health Care Professionals and Researchers

アニュアルレポート2015 Spring
Annual report

女性医師の診療継続および女性研究者の研究活動を支援し、子育てなどのライフイベントと診療・教育・研究を両立しつつ、キャリア形成を継続できる環境を整備します。

ごあいさつ

Annual report　2015　spring

東京女子医科大学 男女共同参画推進局　局長

東京女子医科大学
理事長　吉岡俊正

今世紀に入り、女性医師は増加しています。平成12年以降の医師国家試験合格者では女性の割合が常に3割を超えています。医師全体での女性医師の割合は約2割に達しています。しかし、指導的地位に立つ女性、女性医師（研究者・教員・管理職・医師会役員、学会役員、国・自治体委員等）は極めて少ないのが現状です。女性医師、研究者のキャリアパスはいまだに未熟です。

そのような現状を受けて、女性医師の特性にふさわしい医学教育－初期・後期臨床研修－生涯教育にわたる包括的かつ体系的教育プログラムを構築し、指導的地位に立つ女性医師を育成することは極めて重要であります。

東京女子医科大学では平成18年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」を経て、平成21年に法人直轄の部門として、『男女共同参画推進局』を設立し、多くの事業を進めています。

女性医師・研究者支援センターでは、女性医師の診療継続および女性医学研究者の研究活動を支援するため、子育て等のライフイベントと診療・教育・研究を両立しつつ、キャリア形成を継続出来る環境を整備しています。文部科学省「周産期医療環境整備事業（人材養成環境整備）」による「男女共同参画型ＮＩＣＵ人材養成プログラム－地域とささえあう周産期医療」補助金により設置された女子医大ファミリーサポート事業も順調に定着し、現在は東京医科大学と共同し、運営しています。

女性医師再教育センターでは、出産、子育て、配偶者の転勤等で、臨床現場を離れた女性医師へ現場での研修等による再教育を行います。また、「セーフティネットとしての支援」に加え、「キャリア形成支援」を推進し、「復職支援でニーズの高い一般内科医師研修プログラムの作成」、「e-ラーニングプロジェクト」等の活動を実施しています。

本学の創立者吉岡彌生先生の建学の精神を継承し、発展させ、指導的地位に立つ女性医師および女性研究者育成のために、『女性医師・研究者支援センター』の更なる活躍と発展を期待しています。

東京女子医科大学男女共同参画推進局　副局長
女性医師・研究者支援センター　センター長

東京女子医科大学
附属遺伝子医療センター
所長・教授 斎藤 加代子

平成26年度の東京女子医科大学 男女共同参画推進局 女性医師・研究者支援センターのアニュアルレポートをお届けいたします。

東京女子医科大学は、我が国唯一の女子の医学教育機関として、明治33年（1900年）に設立されました。創立以来、高い知識・技能と病者を癒す心をもった医師の育成を通じて、精神的・経済的に自立し社会に貢献する女性医療人を送り出し、広く地域社会の発展に貢献してきております。そのような歴史と伝統を背景に、女性医師・研究者支援センターは女性医師のキャリア形成支援を行っております。そのミッションは、診療におけるキャリア継続支援、教育におけるロールモデル育成、研究における価値ある業績の蓄積の促進であります。これにより、男女共同参画の推進がなされ、医師不足の解消のみならず、医療の発展、ひいては医学の進歩にも大きな貢献となります。

具体的には、女性医師・研究者支援センターは、多様な勤務形態の整備による女性医師・女性研究者の支援、子育て支援を継続して行っております。子育てと研究・診療の両立実施が可能な体制を構築し、困難に直面する女性医師に研究の遂行や診療の継続を可能とするシステムの形成を行っております。

女性医師・女性研究者の支援については、本学の卒業生（至誠会員）、教職員、学生の父母の皆様からの温かいご支援をいただき、「女性医師研究者基金」「佐竹高子女性医学研究者研究奨励金」の対象者が選考され業績を築いています。さらに、平成25年度からは、「宮原敏基金」の対象者も選考されました。これらを含み、多様な勤務形態の整備による支援も充実して参りました。厳しい時期にも医学研究、医療を継続するという女性医師自身とその周囲の意識改革の進展という効果が出てきていると思います。

保育支援としては、院内保育所においては、昼間保育、延長保育、夜間保育、休日保育、そして病児保育を充実させてきました。待機児保育としての院内保育所を産休・育休明けに利用して、早期の職場復帰がなされています。平成23年度からは、より細やかな、オーダーメイドとも言えるファミリーサポートによる子育て支援を開始し、順調な成果を挙げております。

本学における女性医師・研究者の支援体制をさらに発展させ、指導的立場となる有能な人材が様々な事情でキャリア形成を中断することがないような体制を整備していくこと、大学や病院における育児支援と女性医師・研究者支援のモデルとなる体制の構築を目指して、男女共同参画推進局 女性医師・研究者支援センターが尽力しております。引き続き、皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

女性医師・研究者支援センター　副センター長

総合研究所
准教授　竹宮 孝子

女性医師数は全国的に増加傾向にあり、その活躍が注目されています。それに伴い、女性医師が仕事を辞めずに継続するための支援や一度離職した医師が復職するための支援が広く認知されるようになりました。この数年間には、各地の大学や医療組織において、院内保育所などのインフラ整備や保育相談などの支援が進み、短時間勤務などの勤務形態の多様化や再教育のシステム等が構築されてきました。本学はその草分け的な存在として、夜間・休日をカバーした院内保育に加え病児保育を充実させ、女子医大ファミリーサポートセンターがそれと連携し個々のニーズに合った保育支援を展開しています。また、女性医師再教育センターは、平成27年3月末で111のe-learningのコンテンツを作成し、約4,700名が登録しています。さらに、個々のニーズに応じた復職プロジェクトを無料で提供するというサービスも配信しており、全国的な女性医師の復職支援に貢献しています。

しかし、本当の意味でのGender Equalとは、女性が男性と対等にキャリア形成のチャンスを与えられ、身につけてきた技術や知識や蓄積してきた業績が正しく評価されて社会的地位が与えられるというところまでを含んでいると思います。つまり、多くの女性が社会で指導者として活躍しなくては、真のGender Equalにはならないということです。そのためには、医学生や若手医師に対するキャリア教育は欠かせないと考えられ、本学でも人間関係教育の一環として講演会、シンポジウム、ワークショップなどによるキャリア教育を行っており、当センターも毎年5月下旬の土曜日に女性医師支援シンポジウムを開催し、様々な企画を実施しています。また、女性研究者の育成支援や臨床系テニュアトラック支援として、ポジションの確保や研究費・給与の経済的支援に加えて研究指導やメンタリングなども行っています。

このように、本学の女性医師・研究者支援センターは、仕事と育児を両立しながらキャリアを形成していくための女性医師支援を多角的に行い多くの女性医師を支えてまいりました。これからも諸先輩方が築きあげた伝統を守りつつ時代のニーズに柔軟に対応して多くの優秀な女性医師を育成し、全国的な女性医師支援にも貢献していきたいと思います。今後とも、皆さまの温かいご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

女性医師・研究者支援センター　副センター長

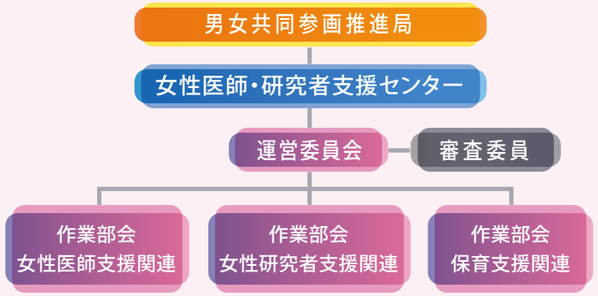
衛生学公衆衛生学（一）
講師　野原 理子

昨今女性の社会進出は目覚ましく、今後ますます女性の活躍が期待されています。それに伴い、子育て支援をはじめとする職場環境整備が急がれています。

子どもを育てながら意欲的に研究や仕事を行うためには、子育ても積極的に行える環境が必要です。本学では以前より附属保育所やファミリーサポートを整備している他、認可保育園への入園申請や地域で提供されている子育て支援制度についての情報提供や相談にも対応し、保護者が安心して研究や仕事を行えるよう支援を行っています。しかし、まだ女性研究者が活躍するには十分な環境が整っているとは言えません。子どもを持つ研究者は保護者として子どものことを第一に考えながら、自分の研究や仕事をどのように展開できるかを常に様々な角度から検討しなければなりません。また、受け入れる側も、多様な状況の研究者たちがお互いに思いやりを持って仕事が進められるよう、課題を一つずつ解決しなければなりません。研究者が充実した研究や仕事を継続できる職場環境づくりのために、女性医師・研究者支援センターは日々努力をしております。今後ともご理解ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

センター概要

多くの指導的立場となる優れた女性医師・研究者を育成し、価値ある業績を積み重ね、将来の日本の医療に貢献することを目指して、平成21年4月に「女性医師・研究者支援センター」を設立いたしました。子育てなどのライフイベントと診療・教育・研究を両立し、キャリア形成を継続できる環境を整備します。



男女共同参画推進局

局　長	吉岡　俊正	学長代行	
副局長	斎藤　加代子	遺伝子医療センター	教授

女性医師・研究者支援センター

センター長	斎藤　加代子	遺伝子医療センター	教授
副センター長	竹宮　孝子	総合研究所	准教授
副センター長	野原　理子	衛生学公衆衛生学（一）	講師

運営委員一覧

作業部会 女性医師支援関連	檜垣　祐子	女性生涯健康センター	教授
	村崎　かがり	医学教育学	特任准教授
	永田　智	小児科	主任教授
	小川　哲也	東医療センター　内科	准教授
	新井田　達雄	八千代医療センター　消化器外科	教授
	片井　みゆき	東医療センター　性差医療部	准教授
	内田　啓子	学生健康管理センター	教授
作業部会 女性研究者支援関連	竹宮　孝子	総合研究所	准教授
	三谷　昌平	生理学(第二)	主任教授
	岡田　みどり	化学	教授
	宮田　麻理子	生理学（第一）	主任教授
作業部会 保育支援関連	野原　理子	衛生学公衆衛生学（一）	講師
	永田　智	小児科	主任教授
	小川　哲也	東医療センター　内科	准教授
	奥津　康祐	医療・病院管理学	助教
	板坂　総一郎	人事部給与厚生課	課長

センターの事業

女性医師の診療継続および女性研究者の研究活動を支援する事業を行います。

- キャリア形成支援事業 ・・・・ 女性医師・研究者の育成支援
- 勤務体制検討事業 ・・・・・・・ 勤務体制、勤務環境の検討と整備
- 保育支援事業 ・・・・・・・・・・・ 院内保育所の充実、ファミリーサポートの運営支援
- 他大学との連携事業 ・・・・・・ 学内外の女性医師・研究者同士の情報交換の場の構成
- 社会への啓発事業 ・・・・・・・ センターの広報

短時間勤務制度 支援内容一覧

女性臨床系教員のためのテニュアトラック
宮原敏基金による「女性臨床医師支援」

故・宮原敏氏（本学昭和7年卒業）の遺贈により設立された基金をもとに女性臨床系教員が診療上の特殊技能取得などキャリア形成を図るために設けられた短時間勤務制度です。准講師以上あるいは卒後10年以上の東京女子医科大学の将来を担う優れた臨床実績を有するか、あるいは臨床能力・技能の優れた女性臨床系教員を対象に1年間の支援を行います。短時間での勤務を継続しながら、自身が定めた目標のための時間が確保できるため、充実した環境の中でさらなるキャリアと向き合い、取り組んでいける支援となっています。

優れた女性医学研究者への研究奨励
佐竹高子女性医学研究者研究奨励金による「女性医学研究者支援」

故・佐竹高子氏（本学昭和8年卒業）の遺贈により設立された基金から女性医学研究者研究奨励金として優れた女性医学研究者が研究と育児を両立できるよう設けられた短時間勤務制度です。必ずしも育児に限らず、介護等の事情も考慮されます。期間は1年ですが、女性医師研究者支援事業基金による「女性医学研究者支援」とあわせ最大3年間の支援を受けることができます。出産・子育てといったライフイベントをむかえながら、医師としてのキャリアを継続できる支援です。

女性医師研究者支援事業基金による「女性医学研究者支援」

当センターの活動にご理解・ご賛同をくださった方々からのご寄付によって成り立っている基金であり、佐竹高子女性医学研究者研究奨励金と同様に優れた女性医学研究者が研究と育児を両立できるよう設けられた短時間勤務制度です。必ずしも育児に限らず、介護等の事情も考慮されます。期間は1年ですが、再応募により最大で3年間の支援を受けることができます。出産・子育てといったライフイベントをむかえながら、医師としてのキャリアを継続できる支援です。

「女性臨床医師支援」、及び「女性医学研究者支援」の対象者募集は、毎年10月頃を予定しています。
ただし、支援開始時期を考慮し、条件、審査を満たした場合は支援期間の途中から開始する場合もあります。
支援ご希望の方は、まず事務局へご相談ください。

臨床系医師の短時間勤務制度
臨床系教員の短時間勤務制度

育児や介護等で通常の勤務が困難となった臨床系教員のための支援です。助教以上の臨床系教員で継続的な勤務が困難となった人や、小学6年生までの子の育児を必要とする人を対象としています。1回の申請で1年の取扱いとし、原則3年まで支援を受けることができます。男性医師も支援を受けることが可能です。

医療練士研修生の短時間勤務制度

医療練士研修生（大学院生を除く）の子育て支援です。小学6年生までの子の育児を必要とする人を対象としています。1回の申請で1年の取扱いとし、原則3年まで支援を受けることができます。男性医師も支援を受けることが可能です。

詳細は、女性医師・研究者支援センターのホームページに掲載しております。
http://www.twmu.ac.jp/w-support/index.html

活 動 報 告

2014

4月7日	（月）	東京医大女性研究者支援事業 女子医大ファミリーサポート連携プログラム立ち上げ会開催
4月21日	（月）	ファミリーサポート運営委員会 女性医師・研究者　定例研究報告会
5月24日	（土）	女性医師支援シンポジウム「女前なロールモデルを探そう!」開催
5月29日	（水）	ファミリーサポート運営委員会
6月23日	（月）	第16回女性医師・研究者支援センター運営委員会
6月24日	（火）	東京慈恵会医科大学視察
6月25日	（水）	茨城県医師会視察
6月30日	（月）	東京医科歯科大学・順天堂大学視察
7月11日	（金）	ドクターズキャリアマンスリー取材
7月28日	（月）	ファミリーサポートネットワーク運営会議
8月19日	（火）	ファミリーサポート運営会議
9月24日	（水）	ファミリーサポート運営会議
10月1日	（水）	女性医師・研究者支援平成27年度支援者募集開始
10月6日	（月）	第17回女性医師・研究者支援センター運営委員会
10月25日	（土）	ファミリーサポート運営会議・全体交流会
10月31日	（金）	女性医師支援シンポジウム打ち合わせ
11月26日	（水）	文科省主催「女性研究者研究活動支援事業シンポジウム」活動報告
12月3日	（水）	ファミリーサポート運営会議
12月17日	（水）	厚労省懇談会参加

2015

1月21日	（水）	ファミリーサポート運営会議
1月24日	（土）	ファミリーサポート全体研修会
2月12日	（木）	愛媛大学来訪情報交換
2月23日	（月）	第18回女性医師・研究者支援センター運営委員会
3月11日	（水）	ファミリーサポート運営会議
3月16日	（月）	大分大学来訪情報交換

イベント報告

女性医師支援シンポジウム2014

女性医師のリアルなライフスタイル「女前なロールモデルを探そう！」を終えて

男女共同参画推進局 女性医師・研究者支援センター

平成26年5月24日（土）弥生記念講堂において、女性医師・研究者支援センター主催、総合研究所共催による、女性医師支援シンポジウムが開催されました。前半は研究支援を受けた女性医師2名による研究成果の発表、後半は「女性医師のリアルなライフスタイル～女前なロールモデルを探そう!～」と題し、学生や若手・中堅女性医師、男性医師など、さまざまな立場の講演者を交えての公開討論会が行われました。シンポジウムには164名、交流会にも42名の方にお集まりいただき、大変盛況のうちに終了することが出来ました。ご参加くださった皆様に心から感謝申しあげます。

支援を受けた2名の女性医師による研究成果発表では、近本裕子氏（座長：服部元史　腎臓小児科教授）、松下典子氏（座長：橋本悦子　消化器内科教授）が、これまでのキャリアや支援を受けるに至った背景などを織り交ぜつつ、ご自身の研究を報告されました。本シンポジウムは、昨年から本学医学部学生（4年生）の人間関係教育の授業の一環として開催したこともあり、学生からは「自分の将来を考える上でとても参考になった、励みになった」　との声がアンケートなどで多く聞かれました。また今回、支援を受けた女性医師が所属する診療科へ斎藤加代子センター長から感謝状が贈呈されました。

公開討論会（座長：竹宮孝子　総合研究所准教授）では、仕事とライフイベント（結婚、妊娠・出産（配偶者を含む）、育児）をどのようにマネージメントしてきたのか、まさに現在進行形の日常を本音で話し合いました。ゲストパネルストとして参加してくださった5名の臨床医師は、忙しい日常をうまくコントロールしながら充実した仕事をしておられますが、共通しているのは、肩の力を上手に抜きながら、子どもの成長や仕事・生活環境の変化に対し柔軟な考え方で適応しているということでした。そして、何よりも子どもを含めた自分の人生を積極的に楽しんでいました。そこには、「子育ては自分自身の力でやりとげなければ」「子供には母親である自分しかいないのだから」というような神話的な育児姿勢は全く見られませんでした。家族・両親・地域の保育支援（保育園や学童保育施設）・地域の人々・職場の仲間や上司・職場内の保育支援（院内保育所や時短勤務）など、周囲の人々に協力を仰ぎ、そして感謝の気持ちを持ちながら、皆で一緒に子どもを育てるという中に、柔軟でしなやかな女前な生き方を見ることができ、将来の自分の姿を想像したのではないでしょうか。今後、出来るだけ多くの医師が、女子医大における充実した支援を充分に活用してキャリアを継続していけるように、スタッフ一同バックアップしていきたいと思います。
（大学ニュース2014年7月号より）

業績一覧

センター運営委員

論文発表

著者名	タイトル	誌名
Michiko Nohara, Toru Yoshikawa, Norihito Nakajima, Kosuke Okutsu	Hospital physicians perform five types of work duties in Japan: An observational study	BMC Health Services Research, 14:375, 2014
野原理子	女性の健康-産業保健の立場から-	公衆衛生,79(2),105-110,2015

学会発表

演者	形式	区分	研究会・学会名	タイトル	開催場所	年月日
野原理子、斎藤加代子、松岡雅人	一般講演	ポスター	第87回日本産業衛生学会	職場における有効な保育支援の検討 -職場内ファミリーサポートの利用状況の分析-	岡山	2014.5.22
斎藤加代子	基調講演	講演	第2回東京医科大学女性研究者研究活動支援事業シンポジウム「医療系大学で活躍する女性研究者の活躍と未来に向けて」	女性研究者支援の連携から見える未来	東京	2014.9.27
堀江早喜, 竹内真純, 山岡和枝, 野原理子, 蓮沼直子, 冲永寛子, 野村恭子	一般講演	ポスター	第73回日本公衆衛生学会総会	女性医師が働きやすい病院」職場環境尺度の開発	宇都宮	2014.11.6

その他

氏名	機関	名称
竹宮孝子	聖マリアンナ医科大学	聖マリアンナ医科大学キャリア支援シンポジウム 招聘シンポジウム「女性医師のキャリア支援～東京女子医科大学の取り組み～」,神奈川,2014.7.12
斎藤加代子	掲載媒体 「DOCTOR'S CAREER Monthly」 発行:(株)リクルートドクターズキャリア	女性医師のキャリアと働きやすさについて,2014.7.17
竹宮孝子	Women Doctors' Community	第１回Women Doctors' Communityシンポジウム 外務省主催「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム: WAW ! Tokyo 2014」シャイン・ウィークス公式サイドイベント,東京,2014.9.20 新しい女性医師ネットワーク: Women Doctors' Community,東京,2014.9.20
野原理子	独立行政法人労働者健康福祉機構	第12回女性医療フォーラム「女性が働きやすくするための環境整備,講演,川崎,2014,9.27
野原理子	茨城県医師会	第7回男女共同参画フォーラム「東京女子医科大学における女性医師支援と保育支援」,講演,水戸,2014.11.9
野原理子	内閣府 男女共同参画推進連携会議 国立大学法人東京医科歯科大学	シンポジウム 地域とつながって研究者の研究力を育てよう 「地域と医科大学で連携したファミリーサポート事業」,講演,東京,2014.12.23

支援を受けた女性研究者

論文発表

著者名	タイトル	誌名
Matsushita N, Hashimoto E, Tokushige K, Kazuhisa Kodama, Maki Tobari, Tomomi Kogiso, Nobuyuki Torii1, Makiko Taniai, Keiko Shiratori, Hiroshi Murayama	Investigation of Ornithine Carbamoyltransferase as a Biomarker of Liver Cirrhosis.	Internal Medicine 2014;53(12): 1249-57. Epub 2014 Jun 15.
Seki A, Nishii K, Hagiwara N	Gap junctional regulation of pressure, fluid force, and electrical fields in the epigenetics of cardiac morphogenesis and remodeling.	Life Sci. 2014 Nov 12. pii: S0024-3205(14)00902-3. doi: 10.1016/j.lfs.2014.10.022. [Epub ahead of print]

学会発表

演者	形式	区分	研究会・学会名	タイトル	開催場所	年月日
角山邦子、龍治修、菊野伸之、早川希、田邉一成		ポスター	第102回日本泌尿器科学会総会	5α還元酵素阻害薬の前立腺肥大症に対する治療効果予測因子 －治療無効例からの検討－	神戸	2014.4.25
角山邦子、清水朋一、小内友紀子、尾本和也、石田英樹、田邉一成		ポスター	第27回日本老年泌尿器科学会	ミラベグロン投与により膀胱機能が改善し 膀胱拡大術を回避できた献腎移植の一例	山形	2014.6.13
松下典子・谷合麻紀子・橋本悦子	パネルデイスカッション	口演	第50回日本肝臓学会総会	非アルコール性脂肪性肝疾患における糖尿病ー肝線維化との関連・治療法と肝発癌に関する検討ー	東京	2014.5.29
菅原裕子・原田豪人・坂元薫・石郷岡純		ポスター	第24回日本臨床精神神経薬理学会 第44回日本神経精神薬理学会合同年会	治療抵抗性うつ病に対するaripiprazoleの増強療法における有効性予測因子の検討	名古屋	2014.11.20-22
堤多可弘・菅原裕子・伊藤遼子・浅野瑞穂・石郷岡純		口演	同上	ミルタザピン単剤療法ならびに増強療法、抗うつ薬の併用療法、抗うつ薬の切り替えの有効性に関する後方視的研究	同上	同上

その他

氏名	機関	名称	
菅原裕子・文東美紀・石郷岡純 加藤忠史・岩本和也	医学書院	生体の科学 Vol.65 No.6 特集：エピジェネティクスの今	精神疾患とエピジェネティクス

支援を受けた女性医師・研究者たち

平成26年度の支援者は2名。
それぞれ異なる分野で活躍している医師であり
研究者でありながら、母となったことをきっかけに
仕事と子育ての両立を前向きに捉え、支援を受けながら
医師としてのキャリアを継続することを選択されました。
お二人のさまざまなチャレンジが多くの方々の心に響き、
励ましとなることを期待しています。

【宮原敏基金による女性臨床医師支援】菅原 裕子 先生（神経精神科）
【佐竹高子女性医学研究者研究奨励金による女性医学研究者支援】西井 明子 先生（循環器内科）

女性医師の紹介

神経精神科 菅原 裕子

【宮原敏基金による女性臨床医師支援】

精神疾患は最も複雑な臓器である脳の障害であり、生体の実質臓器を直接的に調べる手段が乏しいことから、未だ病態が解明されていない身体疾患です。代表的な精神疾患である統合失調症、双極性障害は遺伝要因の関与が明らかとされているものの、一卵性双生児における発症一致率は100%ではなく、遺伝環境相互作用の関与が考えられています。エピジェネティクスは環境要因を受けて変化し、遺伝子発現に影響をもたらすことから、精神疾患における遺伝環境相互作用との関与が注目されています。エピジェネティック変化は組織や細胞種によってことなることから、精神疾患の責任病変が存在する脳そのものを調べるためには死後脳を用いることが重要ですが、投薬の影響や死因や死後の状態といった死後脳特有の交絡因子が存在します。一方で、末梢組織由来試料は死後脳に比べて入手が容易であり、状態像に応じた生体内の変化を継時的にとらえることができます。中でも全身を循環する血液は脳におけるエピジェネティック変化を反映している可能性が考えられ、実際に、精神疾患患者において脳と末梢血でいくつかの共通のDNAメチル化変化が報告されています。
精神疾患の診断は症状とその持続期間をもとに行われ、様々な精神疾患で重複する精神症状があることから、現在の診断基準で診断可能なのは、あくまでも「症候群」レベルであることが予想されます。患者由来の末梢血におけるエピジェネティック変化を調べることで、精神疾患のバイオマーカーとしての有用性を検討し、より詳細な診断や治療の発展につながることを目指しています。

メッセージ

後期研修後、久しぶりに大学病院で勤務することになり、臨床と研究の両立とともに家事・育児をどうこなしていくかが大きな課題となりました。ちょうど1年前に女性医師支援制度の存在を知り、実際に支援を受けさせて頂くことができました。正直なところ、時間的な制約がある中での臨床と研究の両立は容易ではなく、へとへとになって帰宅してからの家事・育児で疲労困憊の毎日でした。仕事への理解があり、家事・育児に協力的である夫、ファミリーサポートの方、医局の先生方など多くの方々の支援のもと、無事にこの1年を終えることができました。皆様方に心から感謝しています。

今後の目標・夢

臨床において、少しでも目の前の患者さんの役立てるように精進するとともに、より良い臨床につなげるために、研究活動を維持していきたいと考えています。精神疾患のバイオマーカーを開発することで、診断の精度を向上させ、早期に適切な治療を行い、患者さんのQOLの向上につなげていきたいです。また、バイオマーカーの開発に留まらず、病態レベルの解明につなげることで、新たな治療戦略が開発できれば良いと考えています。

profile

学歴

筑波大学医学専門学群　（平成15年卒業）
東京女子医科大学博士課程　（平成19年入学）
東京女子医科大学博士課程　（平成23年卒業）

職歴

平成15年　東京大学医学部付属病院　外科研修医
平成16年　東京警察病院　外科研修医
平成18年　東京女子医科大学　神経精神科　医療練士
平成23年　東京女子医科大学　神経精神科　助教
平成23年　理化学研究所脳科学総合研究センター
　　精神疾患動態研究チーム　客員研究員
平成24年　久喜すずのき病院
平成25年　東京厚生年金病院　神経科
平成26年　東京女子医科大学　女性医師・研究者支援センター　兼務

精神保健指定医　精神科専門医　双極性障害委員会フェロー

女性医師の紹介

【佐竹高子女性医学研究者研究奨励金による女性医学研究者支援】　循環器内科　西井 明子

循環器内科に入局してまず驚いたことは、なぜこんなにたくさんの種類の抗不整脈薬があるのかということでした。何を根拠にどう使い分けたらよいのか、それを知るためには、抗不整脈薬の作用機序を知らなければならないと、当時抗不整脈薬の主なターゲットであったイオンチャネルについて、大学院で学びました。小さな単離心筋細胞に、細いガラス電極を刺し、電圧をかけるといろいろな波形の電流がモニター上に現れ、抗不整脈薬を潅流液に入れるとその大きさや形が劇的に変化する、それが薬の効果であるということを知った時の感動と高揚感は今でも忘れられません。3年間実験一筋に過ごした大学院生活が終わり、臨床に戻った時、これで終わりたくないという思いにかき立てられて、米国ニューヨーク州立大学の薬理学教室に単身で留学し、今度はギャップジャンクションについて3年間たっぷりと研究をしました。心筋の活動電位を形成するのがイオンチャネルであり、ギャップジャンクションはその活動電位を一つの細胞から隣の細胞に伝えていく能動的な通路です。

現在では、ギャップジャンクションをターゲットとした抗不整脈薬、心筋保護薬などの研究が世界中で行われています。帰国後、結婚、出産を経て2児の母となりましたが、3年間の女性医学研究者支援を頂いて、ここまで研究を続けてくることができ、心より感謝いたしております。また、大学院時代の指導医で、以来ずっとご指導を仰いできた萩原教授、私が大学勤務を続けることを理解し、子育てを助けてくれた夫、保育園に入れず困っていた時に子供の面倒を見てくれた両親、子供が発熱した時に助けて頂いた院内病児保育室、実験装置・実験動物などの保守管理や実験手技に関して常に助けて頂いた実験補助員や測定技師の方々に、心からの感謝を申し上げます。

学歴 profile

東京女子医科大学医学部（平成6年卒業）
東京女子医科大学大学院　専攻；循環器内科学　（平成8年入学）
東京女子医科大学大学院、医学博士号取得（平成12年卒業）
日本循環器学会専門医
日本内科学会認定医

職歴

平成 6年　東京女子医科大学循環器内科学教室入室、研修医
平成12年　東京女子医科大学循環器内科学教室助手
平成13年　Department of Pharmacology, State University of New York, Upstate Medical University(USA)に留学(postdoctor)
平成16年　帰国、東京女子医科大学循環器内科学教室助手
平成20年　東京女子医科大学女性医学研究者支援室特任助教（兼務）
平成21年　東京女子医科大学循環器内科学教室助教
平成24年　Department of Neurobiology, Harvard Medical School (USA)に留学（Guest researcher）
平成25年　東京女子医科大学循環器内科学教室帰局
平成26年　東京女子医科大学女性医師・研究者支援センター特任助教（兼務）

メッセージ

女性であれば誰でも、自分が将来、仕事と家庭を両立できるだろうかという不安に悩むことがあると思います。私の場合、循環器内科でフルタイムの診療をしながら、研究も家庭もすべて両立するということは、時間的にも体力的にも不可能でした。第1子出産の際、斎藤加代子教授から、女性医学研究者支援に応募してみてはと勧めて頂き、そのお蔭で現在まで研究を続けてくることができ、本当に感謝しております。臨床の仕事を免除され、研究に打ち込むことができて、家族の負担も最小限で済みました。このような支援制度は全国の大学で作られ、利用されていますが、その存在を知らない方もまだ多いのではないかと思います。また、研究費の獲得も、女性研究者向けの助成金が幾つかありますので、自分が何かをやりたいという気持ちがあるならば、諦めずに女性医師、女性医学研究者を対象とした支援制度や研究助成金を積極的に探して、活用されることをお勧め致します。

今後の目標・夢

現在はトランスジェニックマウスを用いたギャップジャンクションの機能の解明に関わる実験をしております。この実験を発展させ、今後はギャップジャンクションをターゲットとした心疾患の治療の進歩に少しでも貢献できればと思っております。また、家族への負担をできるだけ少なくし、自分自身の健康にも留意して、仕事を続けていきたいと考えております。

保育支援事業

院内保育所とファミリーサポート室が連携し、
充実した保育体制を整備しています。

院内保育所

	昼間保育	延長保育	夜間保育	休日保育	病児保育
対象	2ヶ月～就学前の待機児				原則、3ヶ月～就学前
時間	7:30-18:30	18:30-20:00	20:00-7:30	7:30-18:30	8:00-18:00
料金（1時間）	200円 2年目以降300円	300円 2年目以降350円	400円	300円 2年目以降350円	500円

年間行事

4月　お誕生日会
5月　お誕生日会、避難訓練
6月　お誕生日会、避難訓練
7月　お誕生日会、たなばた、避難訓練
8月　プール遊び
9月　お誕生日会、避難訓練、秋のミニ遠足
10月　バザー、ハロウィン、避難訓練
11月　お誕生日会、避難訓練（引き渡し訓練）
12月　お誕生日会、クリスマス会、避難訓練
1月　お誕生日会、避難訓練
2月　お誕生日会、節分、避難訓練
3月　お誕生日会、ひなまつり、避難訓練

研修

6月　知っておきたい子どものBLS：参加者13名
　日本医療保育学会第18回大会：参加者１名
7月　第24回病児保育全国大会（東京都）：参加者８名
　認可外保育施設職員テーマ別研修会：参加者５名
8月　認可外保育施設職員テーマ別研修会：参加者５名
11月　大学合同防災訓練：参加者３名
　通信教育講座受講修了者：参加者４名

その他

- 保育所だより発行（毎月）

2014年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
昼間保育	263	272	276	299	243	256	283	224	253	306	258	306
延長保育	66	67	57	37	43	52	50	41	38	41	45	20
夜間保育	59	59	74	73	71	71	75	60	58	72	57	47
休日保育	20	21	15	27	16	22	21	28	21	6	9	5
病児保育	20	15	20	19	12	26	8	10	21	6	15	13

女子医大ファミリーサポート

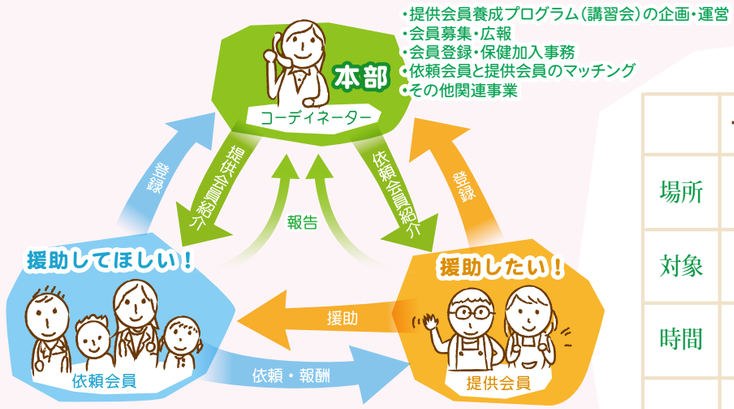
保育園への送り

女子医大ファミリーサポートとは、東京女子医科大学の在籍者が仕事と家庭を両立するための一環として、地域の人々から子育て支援を受け、家族の福祉の向上を図ることを目的とした、会員相互の援助活動です。また地域に対して医学的な知識・技術の提供を通して、地域全体の保育能力の向上を図り、地域と医療従事者との協力体制を構築することも目的としています。

2014年度からは、東京医科大学の在籍者も依頼会員の登録が可能となり、「東京医大女性研究者支援事業女子医大ファミリーサポート連携プログラム」として本事業が行われています。

東京女子医科大学　派遣型家事育児援助システム

女子医大ファミリーサポート



依頼会員
176名

※2015年3月31日現在

提供会員
154名

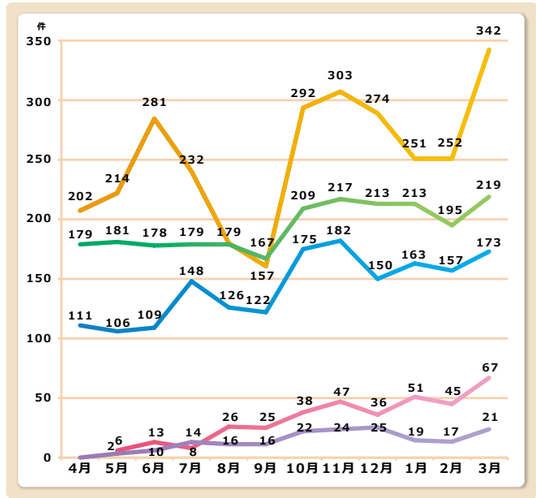
学生サポーター
11名

	一時預かり保育	病(後)児保育	お泊り保育
場所	依頼会員の自宅 提供会員の自宅	依頼会員の自宅	提供会員の自宅
対象	生後おおむね 2ヶ月～15歳	1歳～6年生	1年生～6年生
時間	7:00～22:00	8:30～18:00 土日祝日はなし	19:00～7:00
料金	1時間800円 19:00以降900円 （兄弟の2人目以降は半額）	基本1時間 1,000円	1泊18,000円 （兄弟の2人目以降は半額）

活動実績

保育サービス講習会	提供会員になるための基本講習。全30時間を受講し修了証を受けた者が提供会員となる【6~7月、11～12月】 全30時間：開校式、保育の心、子どもの心の発達とその問題、子どものあそび、子どもの事故と安全、からだの発達と病気、障害をもった子どもの預かりについて、普通救命講習、子どものくらしとケア、子どもの栄養と食生活、病児保育とリスクマネジメント、保育サービスを提供するために、修了式
スキルアップ研修会	提供会員の継続的なスキルアップを図る【9月、2月】 ヒヤリハット事例の検討、ワークショップ
全体交流会	提供会員と依頼会員および登録希望者の交流を図るイベント【10月】 女子医大祭のイベントのひとつとして開催（提供会員さんによる手作りスライム、カラフルこま、折り紙など）
全体研修会	会員をはじめとする地域の方々のための育児支援についての講習会＜一般公開講座＞【1月】 連携している東京医科大学にて開催。浅井春夫氏（立教大学コミュニティ福祉学部教授）による『子どもの貧困と支援の課題 ー どう捉えて、何をするのかを考え続けて』研修会
その他	ファミリーサポート通信11～13号発行【5月、10月、3月】 自治体、大学、大学病院、メディアからの取材、シンポジウム、講演会等での発表

活動件数および内容



全体研修会

保育サービス講習会

保育サービス講習会を終えた提供会員の方々

2014年度年間　活動内容集計表	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
保育園・幼稚園の登園前の預かりと送り	11	10	20	21	20	14	19	18	32	30	19	20	234
保育園・幼稚園の送り	30	34	36	34	21	33	40	28	36	26	31	76	425
保育園・幼稚園の迎え	41	45	47	48	33	79	71	40	33	49	73	81	640
保育園・幼稚園の迎えと帰宅後の預かり	21	24	54	39	17	37	39	51	46	43	23	23	417
保育園等の入所前の預かり	15	24	22	3	12	19	15	16	21	16	26	27	216
登校前の預かりと送り	16	17	21	13	5	17	17	16	3	15	17	14	171
学校の送り													
学校の迎え				2									2
下校後の預かり	16	7	19	11	4	2	11	13	8	7		6	104
学校から学童保育への送り	15	19	19	11	5	19	20	18	18	2			146
学童保育の迎え	4	3	1			1							9
学童保育から帰宅後の預かり	1	2	2			1	1	3	7		2		19
保育園・幼稚園・学校等のお休み時の預かり	6	4	6	10	9	5	8	5	9	7	7	11	87
子どもの習い事・塾等の送迎	6	13	19	15	17	36	30	33	29	19	25	44	286
保護者の臨時的就労の場合の預かり	6	1	1	2		4	3	4	10	7	7	2	47
保護者の学会・研修会参加時の預かり	1			3	1	3	3	2	1	4	3	4	25
保護者の外出時(冠婚葬祭・ﾘﾌﾚｯｼｭ等)の預かり	2	3	2	3	1	7	7	3	4	1	2	7	42
他の子どもの学校行事・通院時の預かり	11	7	11	11	11	9	19	5	4	7	6	5	106
保護者の病気時の預かり（出産前後等も含む）		1								1			2
病児・病後児保育			1	10	1	6		2	2			2	24
その他									11	17	11	20	59
合計	202	214	281	236	157	292	303	257	274	251	252	342	3061